

第3回 「国土を測る」意義と役割を考える懇話会

報告書の全体構成について

報告書の全体構成について

これまでの懇話会で頂いた意見や紹介した事例等を網羅的に含めることができるような構成とする。

各部分の詳細は、報告書骨子（素案）を参照。

- はじめに**
- 懇話会の設立目的、背景を記述。「国土を測る」活動は従来より行われているが、新しい時代を迎える中で、変化や課題が生じており、これを踏まえ、「国土を測る」活動がどうあるべきで、意義や役割を十分に発揮するために何をすれば良いのかを明らかにし、整理する

第1部 「国土を測る」とは

- 「国土を測る」とはどのようなことなのか、その活動を、様々な観点（目的、主体、**歴史**等）で紹介する。

意義や役割の目指す姿は、
スライドNo.3を参照。

第2部 「国土を測る」活動を取巻く課題とその分析

- 「国土を測る」活動を支える新たな担い手が特に地方において不足しており、その確保が課題。
- 高度な「国土を測る」活動などへのニーズに対応が必要であり、これに対応できる高度な技術者が必要。**
- 変化を続ける国土を正しく把握するために、継続して測ることや、高精度な位置情報を得ることができる仕組みが必要。
- 様々な主体による「国土を測る」活動を円滑に実施できるようにし、その成果を共有化できるような仕組みが必要。**
- 「国土を測る」成果を正しく理解し、正しく利用することができるような教育が必要。

詳細は、スライドNo.4を参照。

第3部 課題や問題点に対する対処方案

- 広報を強化することで、国民に対して「国土を測る」意義や役割を広く伝える。
- 「国土を測る」ことを理解し、その成果を正しく利用するために、地理教育を充実させる。
- 防災という切り口で、「国土を測る」活動や意義や役割を伝え、活用できる環境を整備する。
- 「国土を測る」活動を円滑に行う上で課題となる仕組みについて、解決に向けた検討や取組を進める。**

【はじめに～第3部】
赤字部分は、懇話会で
ご意見をお伺いしたい箇所。

第4部 具体的に取り組むべき事項

- 「国土を測る」活動の全体像や効果の明確化、数値化。
- 広報活動の充実や、教育現場の支援。
- 仕組みのあり方やその見直しに向けた検討体制の構築と、検討の開始。

詳細は、スライドNo.5を参照。

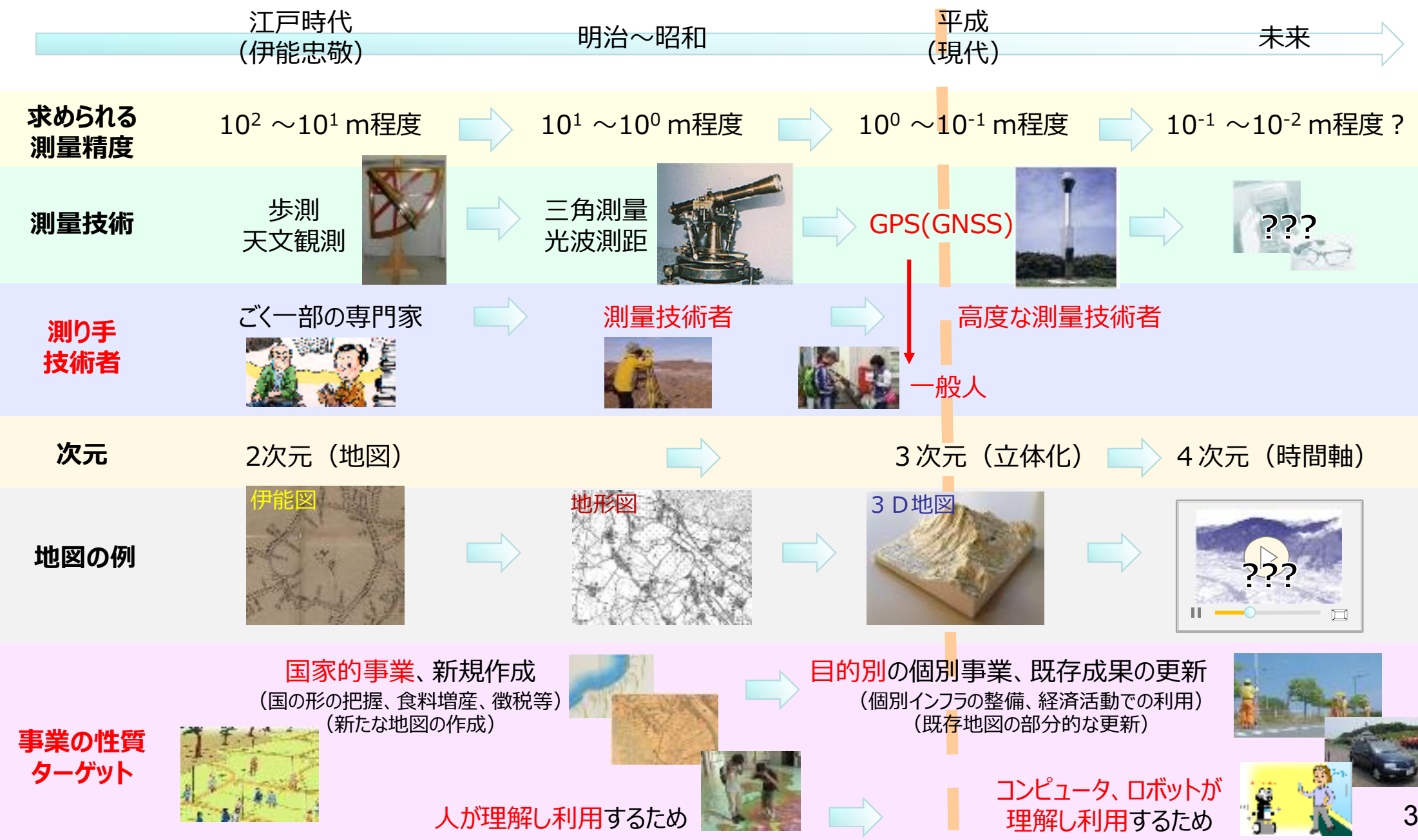
【第4部・第5部】
全体について、ご意見を
頂ければと思います。

第5部 未来社会における「国土を測る」意義と役割の実践に向けて

- 誰もが「国土を測る」意義や役割を知っている社会。教育の中で必ず教えられ、その重要性を理解しながらG空間情報を使う姿を目指す。
- 既存の制度の見直しや新たな仕組みの導入等を通じて、高度で効率的な「国土を測る」活動が行われるようになる。
- 高度な「国土を測る」活動の成果が、世の中の様々な場面で利用され、我が国の成長、経済発展に寄与する。

はじめに (「国土を測る」意義と役割の目指す姿)

「国土を測る」意義や役割を十分に発揮させるためには、現在の意義や役割を明らかにすることに加え、将来どのような意義や役割を担わなければならないのか、という点の検討も必要。



第2部 「国土を測る」活動を取巻く課題とその分析

赤枠の項目は、懇話会で
ご意見をお伺いしたい箇所。

第2部では、「国土を測る」活動を取巻く課題として、以下のようなものを示すことを考えている。

次世代の担い手確保

- 少子高齢化の進展に伴い、特に地方において「国土を測る」活動を行う**技術者の担い手が不足**している。
- 「国土を測る」活動に対する**理解が不十分**で、ネガティブなイメージも生まれており、若者や学生をこの分野に誘引できない。

高度なニーズへの対応

- 生産性の向上や自動化の進展などに伴い、これまでよりも**高精度に「国土を測る」活動を行うことが必要**。
- **高度な技術者の育成**が不可欠であるとともに、そうした取組を円滑に実施するために、**国民の理解**が必要。

変化・変動する国土への対応

- 常に変化し続ける国土を把握するため、**測り続けることが必要**で、そうしたことへの理解も不可欠。
- 高精度な位置情報を得る**仕組みを構築することが必要**。

様々な主体の活動を円滑化

- 技術の進展により、一般の者も測ることができるようになる一方で、**高精度に測るための技術、技術者**も必要。
- 効率的に「国土を測る」ことができるようにするためには**情報の共有化**が必要で、これに適した仕組みが必要。

正しく理解して成果を利用

- 「国土を測る」成果を**正しく利用できない**ことで、例えば防災分野では身の回りの危険を正しく知ることができなくなる。
- **地理教育を充実**させ、「国土を測る」活動に目を向けてもらい、正しく成果を利用できる環境を作ることが必要。

持続可能な開発に寄与

- 国連が進める**持続可能な開発**を達成する上で、様々な**情報を統合化**させる取組が必要となっている。
- 「国土を測る」分野の取組や重要性について、国際化が進む中で多くの国民にその価値を**理解してもらう**ことが必要。

共通する問題点

活動内容や意義、役割が説明できるように整理されていない

「国土を測る」意義や役割が国民に十分伝わっていない

地理教育が不十分で若いうちから接することが少ない

円滑な実施を行うための仕組みの構築が必要

第4部：具体的に取り組むべき事項（案）

第4部では、「国土を測る」活動について、その意義や役割を適切に発揮するためにどのようなことを関係者がすべきか、という点について整理（記述）し、懇話会として提言する形とする。

意義と役割の明確化、整理

「国土を測る」意義や役割を適切に伝えていくために、これまで具体化（数値化）や明確化が十分とはいえない「国土を測る」活動の全体像や、効果などを国土地理院において早急に整理し、広報や教育等で使用できるように、分かりやすい資料等として整理する。整理する際には、活動の担い手（誰がどのように関わっているのか）を示すことに留意する。

広報の推進

広報のターゲットを明確にし、それぞれのターゲットに合わせて、誰がどのような広報を行うべきかを示した戦略を早急に策定する。その上で、国土地理院が運営する地図と測量の科学館等の施設や資産も活用しながら、官民（国土地理院、広報推進協議会等）が協力して、効果的な広報活動を実施する。

教育現場の支援強化

高校における地理教育の必修化の方向が示されたことを重要な機会としてとらえ、充実した地理教育が実施されることを目指し、教員や教育現場の支援のための取組を、国土地理院が中心となって、関係者と協力して進める。

防災活動の着実な実施

防災分野が「国土を測る」活動の1つの有効な適用分野であることを踏まえ、「国土を測る」意義や役割についても理解が進むように留意しつつ、国民にとって必要な防災（災害）に関する情報を、正確に分かりやすく発信する。また、特に初等教育を対象に防災教育の充実に向けて関係者と連携をしつつ、取組を強化する。

仕組みの構築に向けた取組

適切な「国土を測る」活動を行うことが、意義や役割を正しく伝えることにつながることから、活動の円滑な実施に当たって必要となる仕組みや、その仕組みの構築に当たっての具体的な課題等について検討するため、有識者による検討の場を早急に設置し、検討を開始する。